



学校・家庭・地域との結びつき

▼7月15日(金)、市川中学校「学校・家庭・地域連携推進協議会」の総会と専門部会が開催されました。この通称「学家地」は、「生徒や保護者、教師だけでなく、地域の方や

様々な団体が、みんなで考え、手を取り合って、市川中の生徒を大切に育てていこう」という考えのもと、平成5年に生まれ、今年で設立30年目を迎えます。▼令和2・3年度は、コロナ禍のため、「総会」と「ほうとうづくり」は行わず、広報誌「きずな」と市川ケアセンターなどでの「花植えボランティア」を実施してきました。しかし、今年度立ち上げた「市川中学校区・地域学校協働本部」の原点は「学家地」の活動であることから、是非、総会を開催し、地域の方との意見交換を行いたいとの思いから、実施に至りました。▼総会では、今年度の活動方針(案)と予算(案)が審議され、ともに承認されました。その後、「市川中と市川三郷町のこれからの30年を考えよう」というテーマで、市川中生徒会が事前に取りまとめたアンケートをもとに、生徒会長の高室太虎さんが、提案(右参照)をしてくださいました。▼この全体協議には、本校の職員と生徒代表者の他に、会員である社会教育委員、公民館長、保護司、民生児童委員、安全協会、シニアクラブ、社会体育委員、PTA役員、町民会議といった様々な団体の代表者15人が参加し、参加者全員が提案を受けての感想や普段感じていることを述べてくれました。(右参照)▼会の結びに、生徒を代表し西海朱梨さんが、「市川三郷町は、学生と地域の方との距離が近い地域である。地域の方に挨拶をすると、快く、明るく挨拶を返してくれ、私たち学生もこの町で過ごすことに安心感を抱いている。地域の方と交流したいと思っている生徒は多くいるが、機会もなく、コロナ禍で行動に移せざにいる。地域と学生がより密接に関わることができれば、地域も学校も活性化していく。この町に住むものとして少しでも地域に貢献していきたい。」と会をまとめてくれました。



<生徒アンケートの概要>

Q1：市川中の「よさ」(○)と「課題」(×)は？

- 挨拶できる。×元氣よく挨拶できない人がいる。
- 生徒同士の仲が良く、縦割り活動も活発。
- 団結力があり、全力で取り組んでいる。
- ボランティアに積極的に取り組んでいる。
- 伝統を引き継ぎ、新しい課題へも取り組んでいる。
- ×意見や発言が求められる場面での積極性に欠ける。
- ×ボランティア活動の取組差が大きい

Q2：市川三郷町・大門地区の「よさ」と「課題」は？

- 地域の方が温かい。
- 挨拶をすると明るく返してくれる。
- 地域交流の場や活動の場が多くあり安心できる。
- 和紙や花火など歴史と伝統がある。
- 町民が協力して物事を進めている。
- ×行事が少なく、地域の方との交流が少ない
- ×たばこの吸い殻やゴミ捨てがある。
- ×ドライバーが交通ルールを守らない。
- ×自分の住む町を知らない人もいる。

<出された意見・感想の抜粋>

- ・生徒が登下校時などによく挨拶をしてくれる。これからも続けて欲しい。
- ・交通ルールを守らないドライバー、あいさつをしない大人がいると聞いて、心が痛い。
- ・地域の行事に生徒が関わることが少ない。防災訓練にはもっと参加して欲しい。
- ・生徒は、地域や学校のために何ができるのかを考え始めた。次は実際に行動に移すことが大切。
- ・今回の話し合いは、地域のことを前向きに考える良い機会になった。

有意義な夏休みを！

▼山梨県下においても新型コロナが爆発的に増加しています。引き続き感染症対策に万全を期し、楽しく充実した夏休みになしてください。夏季休業中に、何か心配事等がありましたら、まずは担任に一報いただければと思います。